

Study on Method of Analysis of Organizational Culture Change

2. 調査研究報告

Abstract

1. Introduction

住民意識を用いた地域環境特性の評価(第2報)

— 住民意識調査結果の分析について —

八 幡 仁 志 ・ 白 崎 健 一

Study on Evaluation of Regional Environment Characteristics using People's Consciousness (2) - Study on Method of Analysis of Investigation on People's Consciousness -

Hitoshi YAHATA, Ken-ichi SHIRASAKI

Abstract

We are studying on Amenity of Environment by making use of Environment Related Informations.

In this report, we attempted to study on the method of analysis which used the result of Investigation of People's Consciousness.

As it is depending on the results, dispersion analysis sexuality and generation live then distinctly an attribute of an environment was greatly reflected by an intentional investigation.

And it is depending on a principal ingredients analysis, characteristic price that I express, to divide a amenity a life to face nature, and to express a satisfaction temper that I can participate in was requested.

A contribution rate of these three principal ingredients was an approximately 80%.

If being depending on a cluster analysis, similarly independence for every item a distance for every item was able to confirm it.

1 はじめに

環境問題に対する住民の関心は、かつての公害の規制・防止から全般的な環境の質の向上、快適な環境の創造へと向けられている¹⁾。これに対応して環境の評価手法も、従来の個別評価から総合的な評価手法が要求されてきている。

快適な環境とは地域の自然的、歴史的、社会・経済的な要因に応じて異なる地域性をもつと同時に、個人による主観的な考えに影響されると考えられる。そのため、そこに居住する住民自身の評価・選考等の住民意識の把握が必要であり、さらに意識調査結果と環境関連情報を用いた総合解析により住民意識の構造を明らかにすることが重要である²⁾³⁾。当環境センターにおいても、環境情報による地域環境特性の評価^{4)~12)}により快適な環境についての検討や、住民意識調査結果の分析¹³⁾を行っているところであるが、今回、県民生活意識調査結果を用いて検討を行ったので、その概要について報告する。

2 県民生活意識調査について

平成5年度に行われた、県民の日常生活に密着する諸問題について県民の関心と要望をとらえ、県政推進の基礎資料とする目的で実施された県民生活意識調査のうち、環境項目の「住まいの周辺における快適性」についての結果を使用した。

なお詳細は、既に印刷配布されている県民生活意識調査報告書¹⁴⁾に掲載されている。

この県民生活意識調査は、福井県内の市町村を市郡単位

にして6地区(福井、坂井、奥越、丹南、敦賀、小浜)に分類し、さらに都市部と郡部に分けた計10層(坂井は郡部、奥越は都市部のみ)で、満20才以上の男女1,008人を対象として実施され818人から回答が得られた。

資料に、意識調査質問票の一部を示した。

今回の解析に使用した項目は、以下の6項目である。

- ①庭、生け垣、森林などの、緑とのふれあい
- ②川、湖、海など、水や水辺とのふれあい
- ③住宅や道路の維持管理など、周辺の美しさ
- ④山や海のながめなど、自然景観
- ⑤身近な公園や広場など、空間のゆとり
- ⑥以上を総合した、快適性全般

結果は図1~6に示したとおり、緑とのふれあいが満足15.6%(やや満足19.1を含めると34.7%)、以下同様に、水や水辺とのふれあい7.9%(24.6%)、周辺の美しさ5.7%(20.2%)、自然景観11.5%(33.7%)、空間のゆとり6.4%(20.1%)、快適性全般6.2%(25.4%)であった。なお普通を加えた場合には、69.4%(空間のゆとり)~88.7%(緑とのふれあい)であることから、概ね快適性について満足している結果であった。

3 属性クロス集計結果

表1に、属性別のクロス集計結果を示した。主な属性集計結果は、以下のとおりである。

3.1 性別

回答者の内訳は男403人、女415人であった。

3.2 年代

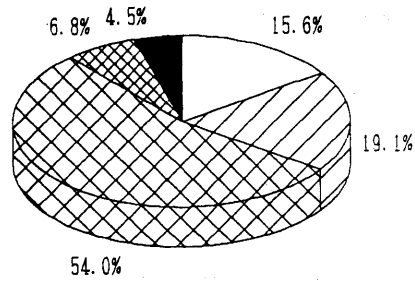


図1 緑とのふれあい

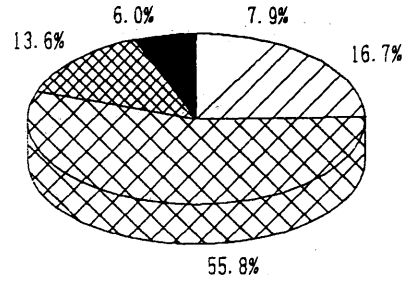


図2 水辺とのふれあい

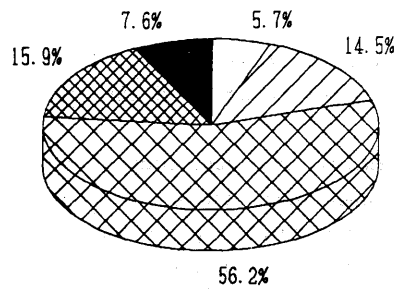


図3 周辺の美しさ

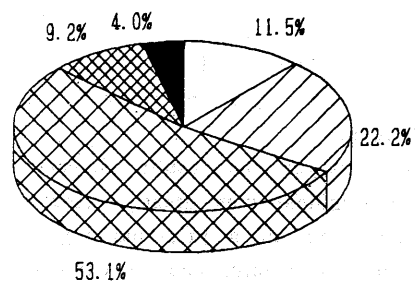


図4 自然景観

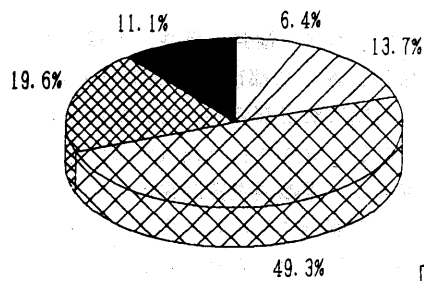


図5 空間のゆとり

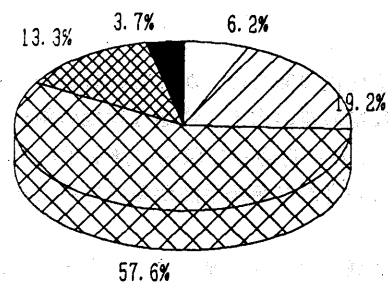


図6 快適性全般

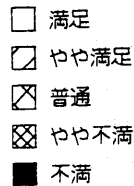


表1 属性クロス集計

属 性	性 别		職 業							居 住 年 数						家 族 構 成					合計	
	男	女	農 漁	林 村	商 工 自 由	事 務 技 術	勞 務	主 婦	学 生	無 職	1 年 未 満	3 年 未 満	5 年 未 満	10 年 未 満	20 年 未 満	20 年 以上	誕生 から	単 身	一 世 帯	二 世 帯		三 世 帯
代	2 0 代	59 46	0	13	53	25	8	6	0	1	4	1	2	2	28	67	10	13	43	27	12	105
	3 0 代	73 92	1	31	80	29	22	0	2	1	5	1	4	8	25	121	1	27	72	58	7	165
	4 0 代	106 95	2	32	84	52	27	0	4	1	1	1	1	12	38	147	1	39	104	50	7	201
	5 0 代	77 84	9	33	36	36	36	0	11	1	0	1	2	2	29	126	5	37	74	36	9	161
	6 0 代	69 64	14	21	13	16	31	0	38	0	1	1	0	1	21	109	7	43	38	37	8	133
住	7 0 以上	19 34	5	11	0	1	6	0	30	0	0	0	0	0	11	42	3	12	12	21	5	53
	住宅地区	199 208	3	66	144	76	69	4	45	1	10	4	8	19	83	282	19	106	174	85	23	407
	商業地区	23 24	0	25	8	5	6	0	3	2	0	0	0	0	12	33	3	9	18	14	3	47
	工業隣接	10 7	0	3	4	7	2	0	1	0	0	0	0	1	0	15	0	3	6	5	3	17
	環境	農村地区	123 123	20	35	76	53	35	2	25	0	1	1	0	4	33	208	2	30	104	96	14
境	山村地区	24 25	2	5	22	9	6	0	5	1	0	0	0	1	8	39	3	11	18	14	3	49
	漁村地区	17 20	5	4	8	7	8	0	5	0	0	0	0	0	11	26	0	6	19	10	2	37
	河川周辺	7 8	1	3	4	2	4	0	1	0	0	0	1	0	5	9	0	6	4	5	0	15
合 計		403 415	31	141	266	159	130	6	85	4	11	5	9	25	152	612	27	171	343	229	48	818

最も多いのが40代の 201人で、最も少なかったのは70代以上の53人であった。他は 105人（20代）～161人（30代）であり、70代以上を除くと年代でのバラツキは少なかった。

3.3 職業

最も多いのが事務・専門技術職の 266人で、次いで労務職の 159人であった。最も少なかったのは学生の 6人であり、無職は85人であった。

3.4 居住年数

生まれたときからが 612人と最も多く、次いで20年以上が152人であり、他は5人（5年未満）～25人（20年未満）であった。

3.5 住環境

住宅地区が 407人、次いで農村地区の 246人であった。最も少なかったのは河川周辺の15人であった。

3.6 家族構成

二世世代世帯が 343人、三世世代世帯が 229人と多く、他は171（一世世代世帯）～27人（単身）であった。

3.7 年代と性別

男で40代が 106人、次いで女の40代が95人と40代が最も多く、逆に少なかったのは男の70代以上の19人（女の70代以上34人）であった。

3.8 年代と職業

40代の事務・専門技術職が84人、次いで30代の事務・専門技術職の80人であった。農林漁業は31人であったが、半数近くの14人が60代で、無職85人のうち60代が38人、70代以上が30人であった。

3.9 年代と居住年数

各年代の6～7割りが生まれたときから住んでいることがわかった。

3.10 住環境と性別

住宅地区の女が 208人、住宅地区の男が 199人、農村地区の男および女の 123人が多かった。

3.11 住環境と居住年数

住宅地区で生まれたときからが 282人で、次いで農村地区で生まれたときからの 208人が多かった。

表2 属性別の評点平均値

項目	属性性別		年代							職業							家族構成				
	男	女	20代	30代	40代	50代	60代	70代	以上	農林漁業	商工業	事務技術	労務	主婦	学生	無職	単身	一世代	二世代	三世代	以外
緑とのふれあい	3.3	3.4	3.3	3.4	3.3	3.3	3.5	3.4	3.4	3.2	3.4	3.3	3.3	3.3	3.5	3.4	3.2	3.3	3.4	3.4	3.4
水辺とのふれあい	3.0	3.1	3.2	3.1	3.0	3.1	3.0	3.2	3.2	3.0	3.1	3.0	3.1	3.2	3.0	2.9	3.0	3.1	3.1	3.1	3.1
周辺の美しさ	2.8	3.1	2.8	2.8	2.9	3.1	3.0	3.3	2.9	3.0	2.9	2.8	3.0	3.7	3.1	2.9	2.8	3.0	3.0	2.9	2.9
自然景観	3.2	3.4	3.5	3.3	3.2	3.2	3.3	3.4	3.3	3.2	3.4	3.2	3.1	3.5	3.4	3.1	3.2	3.4	3.2	3.5	3.5
空間のゆとり	2.7	3.0	2.7	2.7	2.8	2.8	3.1	3.3	2.9	2.9	2.8	2.7	3.0	3.7	3.1	3.0	2.8	2.9	2.8	2.8	2.8
快適性全般	3.0	3.2	3.2	3.0	3.0	3.1	3.2	3.5	3.2	3.1	3.1	3.0	3.2	3.8	3.2	3.1	3.1	3.2	3.0	3.1	3.1
項目	属性性別		居住年数							住環境							総平均	性別年代			
	1年未満	3年未満	5年未満	10年未満	20年未満	20年以上	誕生以上	住宅地区	商業地区	工業地区	農山村	山村	漁村	河川	周辺			女60	女70	男60	男70
緑とのふれあい	3.0	3.2	3.0	3.3	3.4	3.2	3.4	3.2	3.0	3.3	3.5	3.6	3.6	3.3		3.3		3.6	3.5	3.3	3.2
水辺とのふれあい	3.3	3.2	2.6	3.1	3.2	3.1	3.1	3.0	2.8	2.9	3.1	3.3	3.7	3.1		3.1		3.2	3.3	2.9	3.0
周辺の美しさ	3.0	2.3	3.2	2.2	3.2	3.0	3.0	3.0	2.8	2.9	3.0	3.0	3.1	2.3		2.9		3.2	3.3	2.8	3.2
自然景観	3.0	3.6	3.2	3.4	3.4	3.2	3.3	3.2	3.0	3.1	3.4	3.4	3.6	2.8		3.3		3.4	3.4	3.2	3.3
空間のゆとり	2.3	2.7	2.4	3.0	3.1	2.8	2.9	2.8	2.7	3.1	2.9	2.9	2.5	2.9		2.8		3.3	3.5	2.9	3.1
快適性全般	2.3	3.3	3.0	3.0	3.3	3.1	3.1	3.1	2.9	3.1	3.2	3.2	3.3	2.8		3.1		3.3	3.6	3.1	3.3

4 意識調査結果の数値化と分散分析結果

今回、検討した6項目について等尺間隔での評価のため、満足5点、やや満足4点、普通3点、やや不満2点、不満1点の評点付けを行った。

表2に、属性別の評点平均値を示した。

4.1 評点平均値について

各項目の評点平均値は、緑とのふれあいと自然景観の

3.3、水や水辺とのふれあいと快適性全般の3.1、周辺の美しさ2.9、空間のゆとり2.8であった。その中で普通の3.0を下回ったのは、周辺の美しさと空間のゆとりであった。特に空間のゆとりは属性34のうち24で、また周辺の美しさは15属性が3.0を下回っていた。他の項目で3.0以下になったのは、自然景観1属性、快適性全般3属性、水や水辺とのふれあい4属性であった。

これは、福井県の3/4近くが森林であることから、緑に

恵まれていて身近に自然を感じる機会が多いこと等、が緑とのふれあいや自然景観で評点平均値が高くなった理由のひとつと思われる。

また、同意識調査で身近な環境問題で迷惑したり、気になるものとして、「道路、河川、海岸などのゴミ、空き缶、建築廃材」が44.4%（複数回答）もあったことや、環境白書（福井県、平成4年度）にも述べられているように、身近な公園や広場等に不満であると感じている人が多い（質的なスポーツ、レクリエーション需要に対する都市基幹公園の不足や日常生活に密接に関連する住区基幹公園の不足）ということが、周辺の美しさや空間のゆとりで低くなった理由のひとつと考えられる。

最も評点平均値が高かったのは、学生と周辺の美しさ3.8、学生と空間のゆとり、漁村地区と緑とのふれあい 3.7、山村および漁村地区と緑とのふれあい、3年未満の居住年数と自然景観および漁村地区と自然景観の3.6であった。

逆に評点平均値が低かったのは、10年未満の居住年数と周辺の美しさ 2.2、1年未満の居住年数と空間のゆとりと快適性全般、3年未満の居住年数と周辺の美しさ、および河川周辺地区と周辺の美しさの 2.3である。

これは、山村地区や漁村地区においては自然環境に恵まれていることが考えられることから、緑とのふれあいや自然景観において評点平均値が高くなったものと思われる。また前述のように周辺環境に不満を感じていることから、周辺の美しさや空間のゆとりの評点平均値が低くなったものと考えられる。

なお、学生において周辺の美しさや空間のゆとりで評点平均値が高くなったことについては、回答者が6人と少ないことから、回答にかたよりがあったのではなかろうかと推測される。

性別でみると女性の評点平均値が男性に比べて高いこと、また60代および70代以上においては各項目の評点平均値が他の年代に比べておおむね高いことから、女性で60代および70代以上でみたところ、いずれも各項目の評点平均値が男性の場合に比べて上回っている（0.1～0.4）ことがわかった。

これは、主婦が130人と多く、無職85人のうち68人が60代と70代以上であることから、恵まれた自然の美しさや緑とのふれあい等、快適な環境を身近で感じる機会が多いことが理由のひとつと考えられる。

4.2 分散分析結果について

分散分析結果によると、性別による分散比が他の属性に比べて大きく、特に周辺の美しさ、空間のゆとり、快適性全般および自然景観については数倍の数値であった。したがって、性別の属性が県民生活意識調査に強く反映されていることを表している。

また、年代別による周辺の美しさ、空間のゆとりと快適性全般、住環境別の緑とのふれあい、水や水辺とのふれあ

いと自然景観も、性別ほどではないが分散比が高くなっていることから、年代別および住環境の属性も意識調査結果に大きく反映されていることを示している。

他に分散比が大きかったのは、職業別の空間のゆとりと居住年数別の周辺の美しさであった。

表3に、分散分析結果を示した。

5 主成分分析結果

快適性全般が各項目の総合評価であるため、今回の分析から除外した。

表4に項目間の相関係数、表5に主成分負荷量、図7-1～7-3に因子負荷量を示した。

5.1 相関係数について

快適性全般と各項目との相関係数が項目間どうしの相関に比べて高く、周辺の美しさ0.602、緑とのふれあい0.585、空間のゆとり 0.576、自然景観 0.563および水や水辺とのふれあいが 0.499であった。

各項目間においては、緑とのふれあいと水や水辺とのふれあいが 0.474で最も高く、自然景観と空間のゆとりの 0.322が最低であった。

各項目間の相関が良くないことから、各項目がそれぞれ独立していることを表していると推測される。

5.2 主成分分析結果について

第一主成分（Z1）の寄与率は52.5%、第二主成分（Z2）までの寄与率は65.8%、第三主成分（Z3）までを含めると79.8%となった。

表5および図7-1によるとZ1に関しては、最も負荷量の大きい緑とのふれあいが0.7504で評点平均値 3.3、自然景観が0.7344で 3.3、水や水辺とのふれあいが0.7341で 3.1、周辺の美しさが0.7156で2.9、空間のゆとりが0.6858で2.8ということからほぼ評点平均値に相当しているため、満足度を表す特性値と思われる。

表5および図7-1によればZ2に関しては、緑とのふれあいが0.2362、水や水辺とのふれあいが0.3592、自然景観が0.3192、空間のゆとりが -0.5535、周辺の美しさが -0.4132となっており、自然（緑、水辺、自然の眺め等）または日常生活（公園や広場がない、道路の汚れ等）に対する快適性の区分を行っていることから、自然環境に対する快適さと日常生活における快適さ（清浄さ等）を区分する特性値と思われる。

表5および図7-2、-3によればZ3に関しては、緑とのふれあいが0.3887、空間のゆとりが0.3245、水や水辺とのふれあいが0.1045、周辺の美しさが -0.4241、および自然景観が -0.3915であることから、庭、生け垣、身近な公園や広場等の快適性（身近であるため、自分が参加して快適性を高めることができる、期待できる）がプラスで、逆に道路の維持管理、山や海のながめ等についての快適性（どちらかといえば他人任せで、自らが積極的に取り組みに

表3 分散分析表

因子		性別				年代別			
項目	要因	平方和	自由度	不偏分散	分散比	平方和	自由度	不偏分散	分散比
緑とのふれあい	列間変動	2.57	1	2.57	2.76	3.23	5	0.65	0.68
	誤差変動	772.21	816			771.55	812	0.95	
	全変動	774.78	817			774.78	817		
水辺とのふれあい	列間変動	3.20	1	3.20	3.76	6.96	5	1.39	1.63
	誤差変動	696.69	816	0.85		692.93	812	0.85	
	全変動	699.89	817			699.89	817		
周辺の美しさ	列間変動	8.55	1	8.55	10.34 **	13.69	5	2.74	3.32 **
	誤差変動	674.40	816	0.83		669.25	812	0.82	
	全変動	682.95	817			682.95	817		
自然景観	列間変動	5.59	1	5.59	6.57 **	6.27	5	1.25	1.47
	誤差変動	695.30	816	0.85		694.62	812	0.86	
	全変動	700.89	817			700.89	817		
空間のゆとり	列間変動	10.32	1	10.32	10.34 **	25.85	5	5.17	5.26 **
	誤差変動	814.28	816	1.00		798.75	812	0.98	
	全変動	824.59	817			824.59	817		
快適性全般	列間変動	6.46	1	6.42	9.19 **	12.42	5	2.48	3.55 **
	誤差変動	573.64	816	0.70		567.68	812	0.70	
	全変動	580.1	817			580.10	817		
因子		職業別				家族構成別			
項目	要因	平方和	自由度	不偏分散	分散比	平方和	自由度	不偏分散	分散比
緑とのふれあい	列間変動	7.21	6	1.20	1.27	2.62	4	0.65	0.69
	誤差変動	767.57	811	0.95		772.16	813	0.95	
	全変動	774.78	817			774.78	817		
水辺とのふれあい	列間変動	1.19	6	0.20	0.23	2.32	4	0.58	0.68
	誤差変動	698.70	811	0.86		697.57	813	0.86	
	全変動	699.89	817			699.89	817		
周辺の美しさ	列間変動	8.66	6	1.44	1.74	2.07	4	0.52	0.62
	誤差変動	674.29	811	0.83		680.87	813	0.84	
	全変動	682.95	817			682.95	817		
自然景観	列間変動	9.17	6	1.53	1.79	7.51	4	1.88	2.20
	誤差変動	691.72	811	0.85		693.38	813	0.85	
	全変動	700.89	817			700.89	817		
空間のゆとり	列間変動	19.23	6	3.20	3.23 **	2.05	4	0.51	0.51
	誤差変動	805.37	811	0.99		822.54	813	1.01	
	全変動	824.59	817			824.59	817		
快適性全般	列間変動	6.70	6	1.12	1.58	1.92	4	0.48	0.67
	誤差変動	573.40	811	0.71		578.18	813	0.71	
	全変動	580.10	817			580.10	817		
因子		居住年数別				住環境別			
項目	要因	平方和	自由度	不偏分散	分散比	平方和	自由度	不偏分散	分散比
緑とのふれあい	列間変動	2.25	6	0.38	0.39	24.20	1	4.03	4.36 **
	誤差変動	772.53	811	0.95		750.59	811	0.93	
	全変動	774.78	817			774.78	817		
水辺とのふれあい	列間変動	2.53	6	0.42	0.49	22.56	6	3.76	4.50 **
	誤差変動	697.35	811	0.86		677.33	811	0.84	
	全変動	699.89	817			699.89	817		
周辺の美しさ	列間変動	12.89	6	2.15	2.60 *	7.44	6	1.24	1.49
	誤差変動	670.06	811	0.83		675.50	811	0.83	
	全変動	682.95	817			682.95	817		
自然景観	列間変動	2.53	6	0.42	0.49	19.75	6	3.29	3.92 **
	誤差変動	698.36	811	0.86		681.14	811	0.84	
	全変動	700.89	817			700.89	817		
空間のゆとり	列間変動	5.84	6	0.97	0.96	7.28	6	1.21	1.20
	誤差変動	818.75	811	1.01		817.31	811	1.01	
	全変動	824.59	817			824.59	817		
快適性全般	列間変動	4.49	6	0.75	1.05	6.53	6	1.09	1.54
	誤差変動	575.61	811	0.71		573.57	811	0.71	
	全変動	580.10	817			580.10	817		

** : 1%の危険率で有意

* : 5%の危険率で有意

表4 項目間の相関係数

項目名	緑とのふれあい	水辺とのふれあい	周辺の美しさ	自然景観	空間のゆとり	快適性全般
緑とのふれあい	1.000					
水辺とのふれあい	0.474	1.000				
周辺の美しさ	0.366	0.372	1.000			
自然景観	0.457	0.458	0.409	1.000		
空間のゆとり	0.398	0.342	0.457	0.322	1.000	
快適性全般	0.585	0.499	0.602	0.563	0.576	1.000

表5 主成分負荷量

項目名	成分1	成分2	成分3
緑とのふれあい	0.7504	0.2362	0.3887
水辺とのふれあい	0.7341	0.3592	0.1045
周辺の美しさ	0.7156	-0.4132	-0.4241
自然景観	0.7344	0.3192	-0.3915
空間のゆとり	0.6858	-0.5535	0.3245
固有値	2.6238	0.7638	0.6005
固有値の和	2.6238	3.3876	3.9881
寄与率(%)	52.476	15.277	12.009
累積寄与率(%)	52.476	67.752	79.761

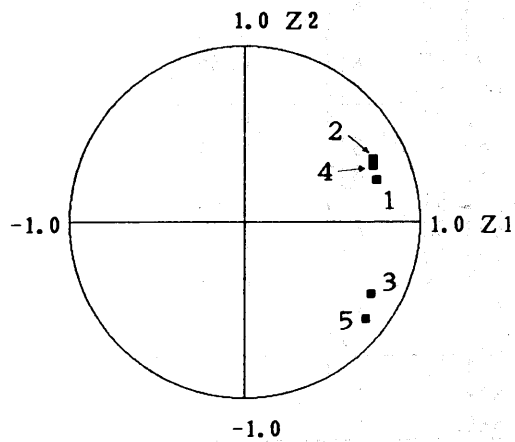


図7-1 因子負荷量

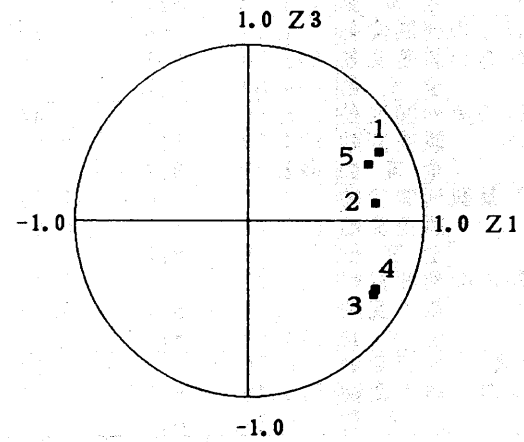


図7-2 因子負荷量

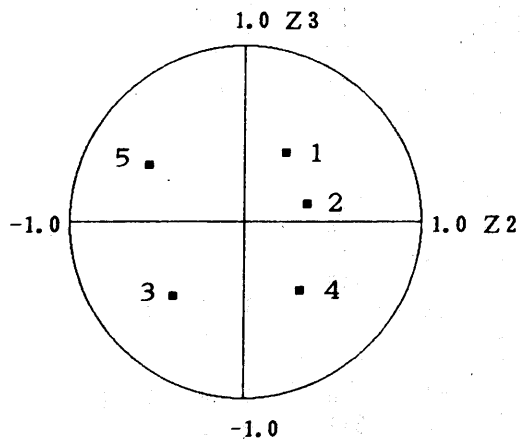


図7-3 因子負荷量

- 1 : 緑とのふれあい
- 2 : 水辺とのふれあい
- 3 : 周辺の美しさ
- 4 : 自然景観
- 5 : 空間のゆとり

くい）がマイナスであることから、自らも参加できるという期待感をもった身近な快適性の度合いを表す特性値と思われる。

6 クラスタ分析結果

今回使用した設問の妥当性を検討するため、クラスタ分析により各項目間の距離を求めた。

表6にクラスタ分析の手法別距離、図8にウォード法

によるクラスタ分析結果を示した。

各項目の距離は、メジアン法による3（周辺の美しさ）と5（空間のゆとり）の0.80680が最も小さかったが、いずれの方法でも各項目の距離に差が認められなかった（最大は、ウォード法における4（自然景観）と5（空間のゆとり）の1.23342）。したがって、今回の意識調査に用いた設問の独立性が確かめられた。

表6 クラスタ分析の手法別距離

分析手法	1 + 2 → 2	2 + 4 → 4	3 + 5 → 5	4 + 5 → 5	4 + 3 → 3
最近隣法	1.02571	1.04162	1.04185	1.08704	
最遠隣法	1.02571	1.04250	1.04185	1.16409	
メジアン法	1.05208	0.82287	0.80680		0.88452
群平均法	1.02571	1.04206	1.04185	1.12403	
重心法	1.02571	0.90712	0.89841		0.93643
ウォード法	1.02571	1.04746	1.04185	1.23342	

<< クラスタ分析 — 基準：ウォード法 >>

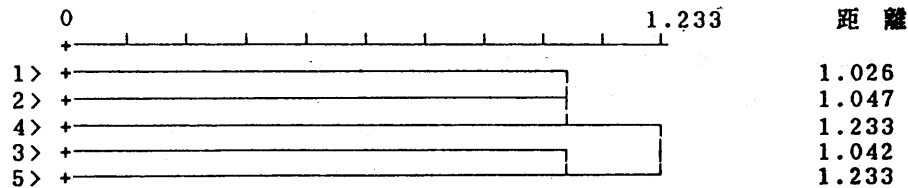


図8 クラスタ分析（ウォード法）結果

7 まとめ

県民生活意識調査結果を用いて検討を行った結果、以下の知見を得た。

1)属性別の評点平均値によると、緑とのふれあい、自然景観、水や水辺とのふれあいと快適性全般については満足している結果であった。周辺の美しさと空間のゆとりについては、やや不満を感じている結果となった。

2)分散分析によると、性別による分散比が大きく、特に周辺の美しさ、空間のゆとり、快適性全般および自然景観については他の属性に比べて数倍の値であり、性別の属性が意識調査に強く反映されていることがわかった。

また、年代別および住環境の属性についても意識調査に大きく反映されているのがわかった。

3)主成分分析によると、各項目満足度を表す特性値と、自然環境に対する快適性と日常生活における快適性を区分する特性値、および自らも参加できるという期待感をもった満足度を表す特性値の三つの主成分が求められた。第一主成分の寄与率は52.5%、第二主成分を含めると67.8%で、第三主成分を含めて79.8%であった。

4)クラスタ分析によると、各項目間の距離はほぼ同程度であることから、設問に使用した各項目についての独立性が確認できた。

参考文献

- 1)浜中信夫, 坂井文夫, 乾正顕, 山内宏太郎: 快適環境づくりに対する住民意識について, 東京都環境科学研究所年報, p. p. 237-266, 1987.
- 2)中杉修身編: 生活環境保全に果たす生活者の役割の解明, 環境庁国立公害研究所報告, p. p. 9-13, 1985.
- 3)原沢英夫, 西岡秀三編: 地域環境評価のための環境情報システムに関する研究, 環境庁国立公害研究所報告, p. p. 54-103, 1987.
- 4)八幡仁志, 稲津悦朗: 環境情報データのメッシュ化について, 福井県公害センター年報, 13, p. p. 130-141, 1983.
- 5)八幡仁志, 宮永信幸: 環境関連情報による地域環境特性の評価(自然環境情報を用いた快適環境特性評価図の作成), 福井県公害センター年報, 14, p. p. 131-145, 1984.
- 6)八幡仁志, 宮永信幸: 環境関連情報による地域環境特性の評価(自然環境情報を用いた快適環境特性図の作成)第2報, 福井県公害センター年報, 15, p. p. 106-124, 1985.
- 7)八幡仁志, 宮永信幸: 環境関連情報による地域環境特性の評価(経済・社会条件の活用)第3報, 福井県公害センター年報, 16, p. p. 130-138, 1986.
- 8)八幡仁志, 宮永信幸: 環境関連情報による地域環境特性の評価・第4報, 福井県公害センター年報, 17, p. p. 89-

107, 1987.

- 9) 八幡仁志, 松山幸弘: 環境関連情報による地域環境特性の評価(主成分分析による地域の分類) 第5報, 福井県公害センター年報, **19**, p. p. 96-108, 1989.
- 10) 八幡仁志: 環境関連情報による地域環境特性の評価(環境関連データによる騒音の評価) 第6報, 福井県環境センター年報, **21**, p. p. 25-32, 1991.
- 11) 八幡仁志: 環境関連情報による地域環境特性の評価について(環境関連データによる大気汚染物質の評価) 第7報, 福井県環境センター年報, **22**, p. p. 17-27, 1992.
- 12) 八幡仁志: 環境関連情報による地域環境特性の評価について(環境関連データによる騒音の評価) 第8報, 福井県環境センター年報, **22**, p. p. 28-33, 1992.
- 13) 八幡仁志: 住民意識を用いた地域環境特性の評価(住民意識調査結果の分析について), 福井県環境センター年報, **21**, p. p. 17-24, 1991.
- 14) 福井県総務部広報課: 平成5年度県民生活意識調査報告書, 1993.

資 料

県民生活意識調査

質 問 票

共同通信社調査センター
1993年7月

①	②	③	④
(地 点 番 号)		(対 象 者 番 号)	

〔ごあいさつ〕

県民の皆様にご意見をお伺いに参りました。このアンケートは、福井県からの依頼で共同通信社が行うものです。日常生活でのいろいろな問題について皆様のお考えと要望をお聞きし、県民全体の声として今後の県政推進の資料とします。

お答えはすべて数字に直し、統計的に処理しますので、後でご迷惑をおかけすることは一切ありません。

お忙しいところ恐縮ですが、趣旨をご理解いただき、このアンケートにご協力くださるようお願い申し上げます。

問22 あなたの「住まい」の周辺における「快適性」について、あなたはどの程度満足していますか。次の(7)から(カ)までの各項目について、1つずつお答え下さい。

(7) 庭・生け垣・森林などの、緑とのふれあいについてはどうですか。

- | | | |
|-----------------|------------------|---------|
| 1 満足している | 2 どちらかといえば満足している | 3 普通である |
| 4 どちらかといえば不満である | 5 不満である | |

(イ) 川・湖・海など水や水辺とのふれあいについてはどうですか。

- | | | |
|-----------------|------------------|---------|
| 1 満足している | 2 どちらかといえば満足している | 3 普通である |
| 4 どちらかといえば不満である | 5 不満である | |

(ロ) 住宅や道路の維持管理など、周辺の美しさについてはどうですか。

- | | | |
|-----------------|------------------|---------|
| 1 満足している | 2 どちらかといえば満足している | 3 普通である |
| 4 どちらかといえば不満である | 5 不満である | |

(エ) 山や海のながめなど、自然景観についてはどうですか。

- | | | |
|-----------------|------------------|---------|
| 1 満足している | 2 どちらかといえば満足している | 3 普通である |
| 4 どちらかといえば不満である | 5 不満である | |

(オ) 身近な公園や広場、広い宅地など、空間のゆとりについてはどうですか。

- | | | |
|-----------------|------------------|---------|
| 1 満足している | 2 どちらかといえば満足している | 3 普通である |
| 4 どちらかといえば不満である | 5 不満である | |

(カ) 以上を総合した、「快適性」全般についてはどうですか。

- | | | |
|-----------------|------------------|---------|
| 1 満足している | 2 どちらかといえば満足している | 3 普通である |
| 4 どちらかといえば不満である | 5 不満である | |